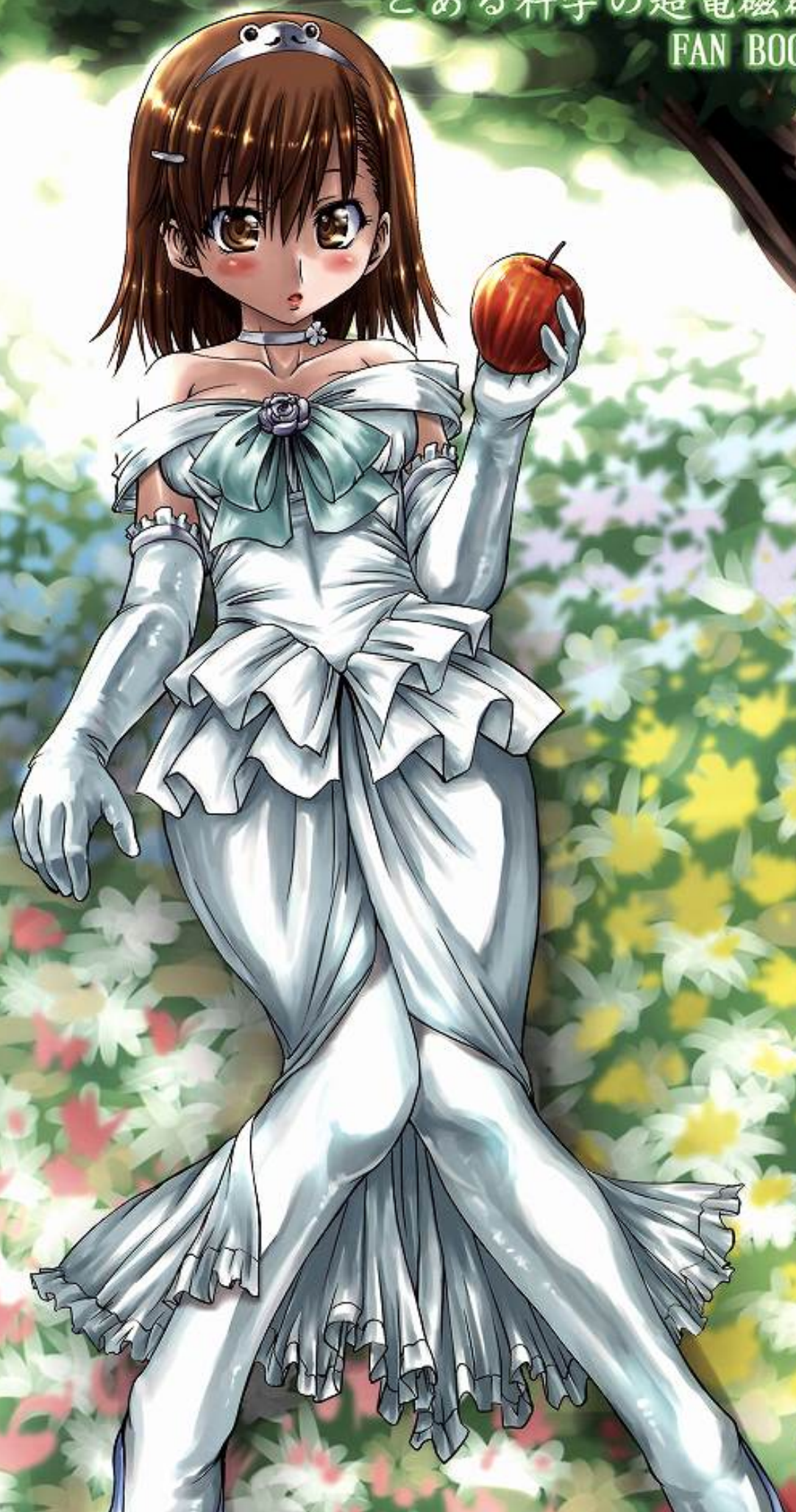


とある魔術の禁書目録
&
とある科学の超電磁砲
FAN BOOK

電撃手びりびり姫





そして、そんな姫を
いつもストリーキング
してる黒い魔女が

何とか自分のモノにしようと
今日も悪巧みをしていました



むかしむかし
あるところ

みんながいる前では
ビリビリ放電して

二人きりになると
ややデレるもの

やっぱりビリビリしてしまふ
ビリビリ姫がいました

別
村
で
お
好
ま
し
て
ん
じ
や
な
い
ん
か
ら
や
っ



なので、いくら魔女から
勧められても食べようとは
しませんでした

いつも何かと魔女から迷惑を
うけてる姫としてはそのリンゴが
めっちゃやうさんくさい物にしか
見えませんでした



ある日黒い魔女は姫にた
リンゴをあげに来ました

お
好
ま
し
て
ん
じ
や
な
い
ん
か
ら
や
っ

田舎から来た人
お好ましかったです
食べたいですね

そこで魔女は
自らリンゴを食べて
毒性のない事を
証明してみせました



それを見た姫は
まだ、わずかながらに
疑いながらも
リンゴを食べました

ちなみに

この黒い魔女は
空間移動能力者で

先程のリンゴも
食べるフリをして
帽子の中にレポート
させていたのです

さよなら言っと

持って来たリンゴは
案の定、もれなく
毒リンゴでした



毒というか魔法が施された
リンゴを食べた姫は

たぎる想いを
抑え切れない
魔女は野外地
あるにも関わらず

リンゴの魔法で深い
眠りについてしまいました

さっそく着ている物を脱ぎつつ
姫に近づいて行きました



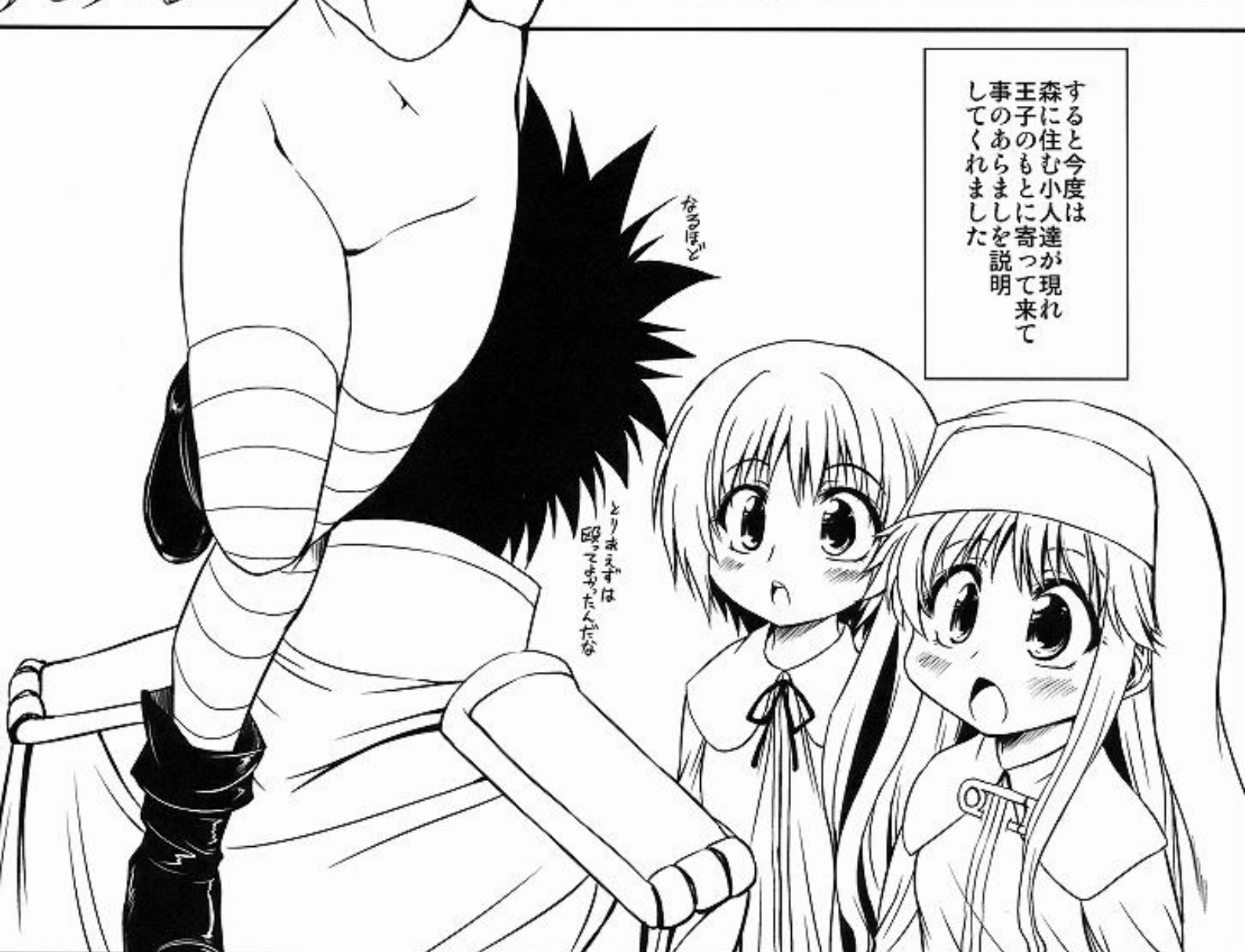
もう少し
ぞしたのにな

百合な展開が期待されてた空気ごと
魔女を退治してしまいました



そこへ通りすがりの
どっかの王子が現れました

王子は、悪そうな奴はとりあえず
ブン殴る困った性格で



なるほど

とっちはあつは
あつはあつは

すると今度は
森に住む小人達が現れ
王子のもとに寄つて来て
事のあらましを説明
してくれました

とにかく困ってる人を放って
おけない損な性格な王子は

小人と妖精達も
はやしたてるので
眠り姫にキスをしようと
決意したのでした



しかし姫は困りました

リンゴの魔法で体は動かないものの
意識はハッキリしていたので
気が気でありません



自分のファーストキスの相手が王子といえど
どこのどなたかも知らない通行人なので
素直に受け入れ難かったです

でも姫はツンデレなので
そうは思ってはいいても心のどこかで
期待もしていました



さらに森の妖精が現れ

姫にかかった眠りの
魔法を解くには王子の
キスが必要なのだと
教えました





かと思いましたが

そこへ今度は
森の守り人達が
現れました



ちなみに王子の方も
これがファーストキス
なので緊張の面持ちで
姫に歩み寄りました

そしていよいよキス



困ってる人が目の前にいる時は
他の事など顧みず突っ走る性格の
王子は助けに行く事にしました



守り人達は森で倒れている人を
見つけたので、助けて欲しいと
王子に頼んできました



姫には二万人の妹がいるのだと

妖精と協力して姫を運んで来た小人は言いました

現場に辿り着いた王子は驚きました

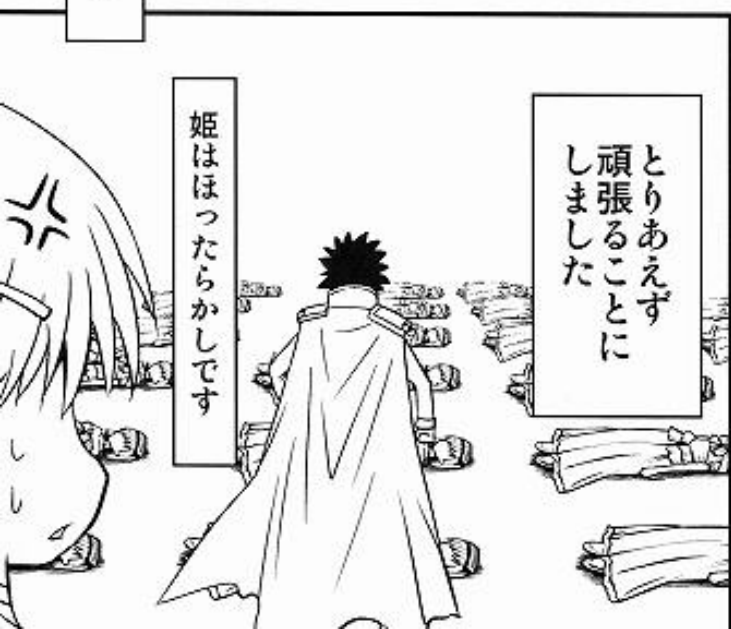


そこには先程の姫と同じ顔をした女の子がズラリと並んでいたのです



その妹達も全員姫と同じように魔法にリングを食わされ魔法で眠らされているので、やはりキスで何とかするのだと続けて言いました

それを聞いた王子は



とりあえず頑張ることにしました

姫はほったらかしです



緊張でガチガチに
なりながらも王子は
一人目の妹に
キスをしました



すると間もなく妹は
目を覚めました



さらに妹は王子の特に
ガチガチになってる部分を
目ざとく見つけました



人命救助をしながらも
興奮してしまった自分を
恥じる王子の様子を見て
妹はなるほどと察し



とりあえずパンツを見せて
王子のさらなる反応を
楽しんでみました





「助けていただいたお礼がしたいので二人きりになれるとこが静かな所へ行きませんか?と、ミサカは処女ながらもそれなりに色っぽくお誘いしてみます」と



予想通りの反応に気を良くした妹は

王子の手を取り自分の胸に押し当てこう言いました



おめでたいー!!

しばらくして王子は妹をお姫様だっこで連れて戻って来ました

二人ともとても満足気な顔をしています



王子の中で何かが弾けました



小人達にしばらくしたら戻ってくるからこっちに来ないようにと念を押し王子は妹を連れて森の中へと消えて行きました



ずっとほったらかしの姫は

だんだんイライラしてきました



ちなみに二万人の妹達は互いの脳波をリンクさせていて記憶を共有しているのです



すると間もなく目を覚ました二人目の妹は

そのまま舌を入れてきました



すっかり緊張も取れた王子は二人目の妹にキスをしました



やはり二人で森へと消えて行きました

姫はさらにイライラしてきました



なので二人目の妹は先程より挑発的なポーズで王子を誘い

しばらくして戻って来た
王子は三人目の妹に
キスをした

当たり前のように
二人で森へと
消えて行きました

しばらくして
戻って来た王子は
何だかフラフラ
していました

そうとう
激しかったようです

これはヤバい
こんな調子では
とても体がもたない

そう思った王子は
これからはとりあえず
キスだけにしようとの
決めました

しかし目覚めた四人目の妹は
例外なく王子を求めてきました

妹は王子の弱いところ
巧みに攻めてきます

そんな時、王子の前に
森の仙人が現れました

事情を聞いた仙人は
王子にある物を授けました

これを使うとアレやコレやと
とにかく元気になると言われ

怪しいと思いながらも
王子はそれを使ってみました

するとどうでしょう
さっきまでゲンナリだった
王子の気分もアレも
たちまち元気になったのです

おおっ！！

実は王子に渡した物はまだ試作品だったので
最終テストとして仙人は着ている衣を
脱ぎ捨て王子に自分の裸体を
さらけだしました

起伏に乏しい自分の肢体を見ても
欲情するのか試させて欲しいとの事です

それを受け仙人は
大変満足して行き

王子は四人目の
妹を連れて
森へと行き

姫のイライラは
どんどん
募りました

その後も王子の快進撃は続き
十人目、二十人目、百人目、千人目と
ジャンジャンこなしていききました



一方、姫のイライラもとつくに
ピークを超え、イライラが放電を始め
周辺の空気がビリビリしてきたのです



そして二万人目の妹に
王子はキスを終え



姫は電気でバリアを
張っていました



待たされ過ぎて
怒りも最高潮です

いよいよ姫の番に……
と思ったら





姫の電撃はあっさり打ち砕かれ
同時に姫も我に返りました

「未だかつて誰にも破られた
事が無いのに……この人になら私……」
と姫は思いました

姫は妹達と違い記憶は共有されてい
ないので
これから自分がされるであろう事を
いろいろ想像して大変ドキドキして
いました



「バカだな私」と姫は
内心思っていました

心の準備も出来て待ちに待った
ファーストキスだったのに姫は自分から
相手を拒絶してしまっていたのです




電撃スパーク中の姫に
真正面から突っ込む
バカだったのです

しかし王子も目の前に
壁があると乗り越えずには
いられない性格の為


今行きます



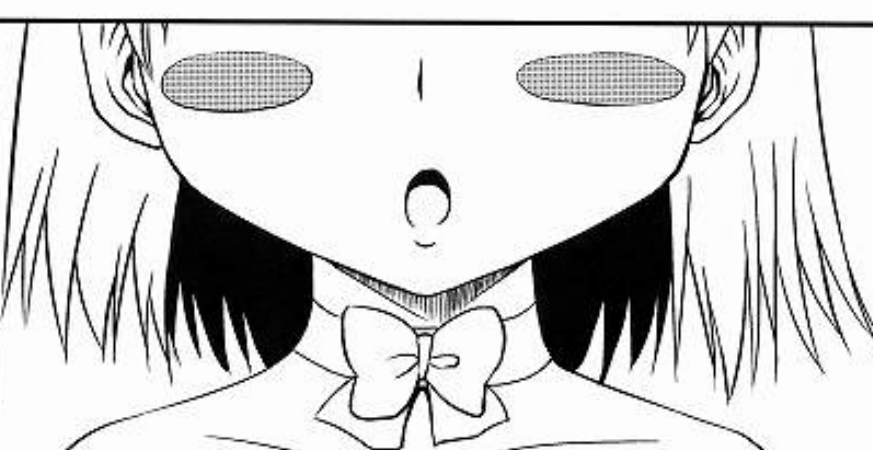


王子は姫を抱き寄せ
キスする気満々でした

姫もされる気
満々でした



小人や、妖精、守り人や
二万人の妹達も応援してました



「ていうか」

そこへ

「もう目覚めてるから
キスする必要ないよね

ってミサカはミサカは良い
雰囲気二人の間に割って
入ってツツコミを
入れてみたり」

実はもう一人いた
姫の二万人目の妹が
現れました

この子はまだ幼い為か
魔女には狙われずに
いました

そしてさらなる事実として

王子の右手には何故か幻想殺しという
触ればどんな魔法や超能力も
消し去る能力が備わっていて

キスするまでもなく右手で
姫に触れるだけで既に
リンゴの魔法は解けて
いたのでした

ついでに言うとう
二万人の妹達も右手の
ワンタッチで既に魔法解除は
出来ていたのでした

冷静になって考えてみたら
二万人に対してあんな事まで
する必要はなかったんだよな
と、王子は思いました

これにて全てを
片付けた王子は

「んじゃ俺帰るわ」と
みんなに告げました

みんなも
「ありがとう王子
と、見送りました」

「ちよつと待て
コラーツッ！」

姫だけは
怒って
いました

「私の純情を弄んで
ただじゃおかないわよ」と
叫んでいました

「妹達はキスとかそれ以上の
事までされてるのに自分だけ
何もされてないのが悔しい
と、聞こえなくもないよね

と、ミサカはミサカは
フライドが高い姫の
心情を代弁してみる」
と、二万一人目の妹が
言いました

痛い所を突かれた姫は
逆上して幼い妹に
飛びかかろうとしました

と、そこへ

!?

通りすがりのどっかの
黒い王子が現れて



黒い王子の乗る馬に銜えられた
二万一人目の妹が意図せずそのまま
さらわれてしまいました

「何か妙なモン拾ったが戻しに行くのも
メンドクせえからまあいいか
俺はコーヒー買いに行くのに忙しいからな」と

いつも一方通行な性格の
黒い王子は止まる事もせず
そのまま突っ走りました

「大変！
あれは森で最強の
黒い王子よー！」

「黒い王子に幼女が
さらわれたわー！」

「さっさとあいつ
ロリコンなのよ！
連れ去っていろんな
イタズラする気なのよー！」

小人や妖精達が
騒ぎました



「待てこの野郎！
アンタまだやり残してる事
あんでしょ！」



姫もその王子を追って
走り出しました

「なんだって？
しょうがねえな
俺が助けに行くぜ！」

お人好しで熱血バカの
王子は黒い王子を
追って走り出しました



その後
王子や姫が
どうなったかは…

特に考えても
いないんで
とりあえずは
めでたしめでたし

とある魔術の禁書目録
&
とある科学の超電磁砲
FAN BOOK



2009 CHINPUDO
by MAROI

